

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 地域の第一線で頼りにされ、愛され、そして地域を支えていく「地域の星」となる人材を育成する。
- 教科指導および進路指導の強化、さらに部活動や学校行事を通して生徒の進路選択肢を増やし、将来幅広い分野で活躍できる人材を育成する。
- 自らを律し、他人に思いやりを持ち、何事にも誠実に取り組む態度を育成する。
- 共生推進教室の設置により、ノーマライゼーションを推進できる人材を育成する。
- 国際交流活動を通して、多様性を享受する能力を育成する。
- 地域連携をさらに推進し、地域とともに成長し信頼される学校となる。

2 中期的目標

1. 学力の向上

- (1) 個々の生徒に応じた授業を展開し、授業満足度を増大させる。生徒の学習状況に応じ「わかりやすく楽しい授業」から「難しいが進路実現に役立つ授業」まで幅広い質の授業を展開
- (2) ICT 機器の活用、研究授業等により教員の授業改革を進め、学力の3要素（知識・技能／思考力・判断力・表現力／主体性・多様性・協働性）の育成を図る。
- (3) 学力生活実態調査を活用し、3年間を見通した学力および学習習慣の育成を図る。

- ※ 学校教育自己診断：「授業内容は難しいが、進路実現に役立つ」への生徒の肯定的回答 75%以上
- ※ 学校教育自己診断：「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」への生徒の肯定的回答 85%以上を維持
- ※ 学力生活実態調査において、3年間学力到達レベルB 3以上を維持

2. 自主的な活動の推進

- (1) 生徒会活動・学校行事・部活動の活性化、国際交流活動の推進
- (2) ボランティアや地域と連携した事業への積極的な参画
 - ※ 部活動への参加率 70%以上を維持、活動実績の向上
 - ※ 学校教育自己診断：「国際交流、他校または地域との交流活動に参加する機会が多い」への生徒の肯定的回答30%以上

3. 安全で安心な魅力ある学校づくり

- (1) 「高校生活支援カード」や「安心・安全アンケート」等により生徒情報を収集し、教育相談を積極的に行う。
- (2) 規範意識、人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちをより一層涵養する。
- (3) 地元警察と連携を図り、自転車事故・盗難予防のための計画的で継続的な指導を行う。
 - ※ 学校教育自己診断：「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」への生徒の肯定的回答 65%以上
 - ※ 学校教育自己診断：「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」への生徒の肯定的回答 70%以上を維持

4. 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導

- (1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有効に連携させ、「キャリア教育」、「人権教育」および「志学」を包括的に展開する。
- (2) 自らの進路目標達成に向け、主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導を行う。
- (3) 社会の情報化・高齢化・グローバル化に対応し、多様性を身に付け主体的に生きていくことの出来る力を育成する。
- (4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。
- (5) 進学実績の向上を強力に進める。
 - ※ 共生推進教室の卒業時の就職率 100%
 - ※ 実用英語技能検定 2 級取得者が 20 名以上在籍
 - ※ 学校教育自己診断：「共生推進教室の生徒とともに様々な活動に参加する機会が多い」の生徒の肯定的回答 40%以上
 - ※ 2020 年度卒業生まで、現浪のべ合格数で、国公立大学および難関私大（関関同立）30 人以上、中堅私大（産近甲龍）100 人以上をめざす

5. 広報活動の充実

- (1) 地元中学校との連携、および広報紙・学校説明会をより一層充実させる。
- (2) インターネットを活用し、本校の教育活動の積極的な発信を図る。
 - ※ 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」の保護者の肯定的回答 85%以上
 - ※ 中学 3 年生対象第 1 回進路希望調査において希望倍率 2.0 以上

6. 業務の効率化・整理による職員の時間外勤務の縮減

- (1) ノークラブデー、一斉退庁日を確実に実施する。
- (2) 安全衛生委員会等において校内業務の効率化・整理を検討する。
 - ※ 前年度より職員の月平均時間外勤務時間数を縮小する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同窓会の支援により全ホームルーム教室にも短焦点プロジェクターを設置したことで教員の授業工夫が進み、生徒の「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」という回答が 91.3%へと大きく伸びた。 ・生徒の多様な進路希望が要因であると考えられるが、「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」への肯定的回答が 73.0%と落ち込み、生徒の学習目的や進路目標のステージアップへの意欲向上などの取組みが求められる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」という生徒が 62%と満足できる割合ではない。一方で「カウンセリングマインドで生徒指導を行っている」と回答した教員が 72.7%であり、この割合の向上やカウンセリングマインドを伴う生徒指導の具体的な方法について研修する必要がある。 ・「命の大切さ・社会のルールについて学ぶ機会がある」と回答した生徒が毎年増加し、今年は 76.2%（昨年 74.5%）であるが、更なる向上が必要。 ・「授業規律が保たれている・先生はルールを守らない生徒を注意している」と回答した生徒が 78.4%に対し教員は 94%と意識に乖離がある。教員各自の意識修正が必要。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターを活用している教員は全体の 72.7%であり、概ね活用状況は良いと思われる。 ・ボランティアや国際交流に参加する機会づくりや告知方法等に工夫が必要である。 ・本校入学希望者が昨年より急増し、本校の教育活動や校内の雰囲気や地域に浸透してきていると感じる。広報活動の見直しや更に魅力ある学校説明会さらに学校行事の運営方法について改善を続けていく。 	<p>第 1 回（6/5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○H30 年度学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試の合格者絞り込みの影響で中堅私大の合格数が心配であるので一層の取組みを。 ・新大学入試に向けた取組みの推進を。 ○共生推進教室について <ul style="list-style-type: none"> ・「宣伝不足」「入試の基準が不明確」の 2 点が気になる。保護者からも情報不足で不安の声がある。 <p>第 2 回（10/23）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第 2 回学習実態調査の結果について <ul style="list-style-type: none"> ・大半の学校で学年進行とともに成績が下降する傾向にあるが、2 年生はほぼ維持できている。 ○授業アンケートの集計結果について <ul style="list-style-type: none"> ・全教室への短焦点プロジェクターの配置が完了したことから、教員の「授業の工夫」の評価向上が期待できる。 ○災害時の安否確認 <ul style="list-style-type: none"> ・一斉メール配信によって確認するとしているがメールを見ない生徒への対応もお願いしたい。 <p>第 3 回（1/22）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己評価（1 月時点暫定案）に関する評価 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の自己評価については妥当であると判断される。 ・部活加入率の更なる向上のための施策をお願いしたい。 ・入学希望者が年々増加していることは、部活の頑張りや進路実績等の教育的成果が影響していると考えられる。 ・自然災害対策でトイレ改修が先送りされ抜本的な環境改善が進まないが、業者による清掃回数増など引き続きソフト面での対応をお願いしたい。 ○来年度の経営計画について <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の結果を踏まえた取組みの修正や適切な目標設定がなされており承認する。 ○専門コースの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・現状の生徒のニーズを考慮し、学校の方針を追認する。

府立久米田高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	<p>(1) 教員の授業力向上による幅広い質の授業の提供</p> <p>(2) 共生推進教室の授業づくりを軸に授業改善に取り組む</p> <p>(3) 学力生活実態調査を活用し学力・学習習慣の定着を図る</p>	<p>(1) 5月の授業公開による教員相互および保護者からの助言等を参考に授業改善に取り組む。教員相互の授業見学や7月の授業アンケート結果を踏まえ教員間で授業改革に向けた取組みを共有し、12月の授業アンケート向け改善実践を進める。</p> <p>(2) 共生推進教室生徒にも参加しやすく理解しやすいユニバーサルデザインの視点を取り入れたり、ICT機器を活用した教材・授業開発を進める。</p> <p>(3) 学力生活実態調査を1・2年生は年2回、3年生は年1回実施し、結果データを個人・保護者面談等に有効に活用する。</p>	<p>(1) 「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」80%以上。(H29年度：72.3%) 「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」85%以上。(H29年度：87.8%)</p> <p>(2) 共生推進教室生徒アンケートで、「授業はわかった」80%以上。</p> <p>(3) 学力生活実態調査の学力結果(GTZ)をB3以上</p>	<p>(1) 「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」73.0% (△) 「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」は91.3%と伸びた (◎)</p> <p>(2) 共生推進教室生徒アンケートで、「授業はわかった」100% (◎)</p> <p>(3) 第2回学力生活実態調査の学力結果(GTZ)1・2年生ともB3 (○)</p>
2 自主的な活動の推進	<p>(1) 部活動の活性化</p> <p>(2) 国際交流の活性化および地域と連携した事業への積極的な参画</p>	<p>(1) 各部のガバナンスを強化し、計画的かつ誠実に部活動をマネジメントすることにより、やる気のある生徒を多く育て活動実績も高める。「部活動勧誘冊子」に改善を加え、年度当初に体験入部を実施し、入部者数を確保する。</p> <p>(2) 地域の各種団体との連携を深め、地域のイベントや交流に積極的に生徒を派遣する。国際交流事業への参加生徒数の増大および関連団体と連携した交流校の受入れの推進。海外語学研修を実施する。</p>	<p>(1) 入部率70%以上(H29年度：71%)</p> <p>(2) 学校教育自己診断「近くの学校や国際交流、ボランティア活動等の活動に参加する機会が多い」生徒回答30%以上(H29年度：26%) 海外語学研参加数20名以上(H29年度：30名)</p>	<p>(1) 入部率69%。さらなる増加に取り組む (△)</p> <p>(2) 海外語学研修参加者19名であったが海外からの訪問が3件(ドイツ、台湾、香港)に大幅増(H29：0件)し、「近くの学校や国際交流、ボランティア活動等の活動に参加する機会が多い」との生徒回答も33%と目標を上回った (○)</p>
3 安全で安心な学校作り	<p>(1) 教育相談体制の充実</p> <p>(2) 規範意識、人権意識、ノーマライゼーション、思いやりの気持ちの涵養</p> <p>(3) 警察との連携</p>	<p>(1) 「高校生活支援カード」の活用、安全安心のアンケートを年2回、いじめアンケートを年1回実施することにより、生徒の困り感に対して早期に組織的に対応する。経験の浅い教員をはじめ教員の指導力伸長のため、教員研修を充実させる。</p> <p>(2) 「遅刻指導」、「ベル着指導」の実施。生徒が適切なコミュニケーション力を身に付け、課題を克服して成長できるように、SCをはじめ外部専門機関と連携する。3年間を通じた人権教育指導計画を作成する。</p> <p>(3) 地元警察と協力して、登校指導を行い、自転車のマナー指導や防犯に対する意識を啓発する。</p>	<p>(1) 研修を年7回以上実施。研修後の教員アンケート評価の平均値80点以上(H29年度：平均83.6点) 学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」65%以上(H29年度：63.3%)</p> <p>(2) 年間遅刻総数前年度比10%減 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」70%以上</p> <p>(3) 年に2回、警察と合同で登校指導・防犯指導を行う。1年生対象の交通安全講習会を実施する</p>	<p>(1) 職員研修8回実施。研修後の教員アンケート評価の平均値85.8点 (◎) 学校教育自己診断「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」62.0% (△)</p> <p>(2) 遅刻総数4176件(H29：3250件)3年生の2学期後半からの急増が課題 (△) 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」76.2% (◎)</p> <p>(3) 警察と合同で自転車施設啓発活動を1回実施し、防犯運動に1回協力1年生対象交通安全講習会実施(4月) (○)</p>
4 個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導	<p>(1) 「キャリア教育」、「人権教育」および「志学」を包括的に展開</p> <p>(2) 主体的に学習状況を把握し進路目標までのマイルストーンを描きながらアプローチできる進路指導</p> <p>(3) 情報化・高齢化・グローバル化に対応し、多様性を身に付け主体的に生きていく力の育成</p> <p>(4) 「共生推進教室」と一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させる</p> <p>(5) 大学進学実績(現役合格数)の向上を進める。</p>	<p>(1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有効に連携させる。「スケジュール手帳」に改良を加え、継続して使用する。1年次の自分の将来を語る1分間スピーチ、調べ学習を積極的に展開する。</p> <p>(2) NPO久米田フレンドシップクラブによる進路説明会(公務員・教育・看護)の実施。「学力生活実態調査」で学力・学習実態把握、弱点克服を図る。年数回、校内で実施している外部模試で、入試の為の実践力をつける。動画講義アプリケーションソフトを斡旋し、家庭学習の充実を図る。</p> <p>(3) グラム(アメリカ合衆国)への海外修学旅行の実施。 オーストラリア海外語学研修の実施</p> <p>(4) 社会の構成員としての知識・経験を身につけさせ、「共生推進教室6期生(3年生)」の全員の就職をめざす。</p> <p>(5) 分野別進路指導を充実させる。土曜講習・長期休業中の進学講習を実施する。年2回学習合宿を実施する。</p>	<p>(1) 「スケジュール手帳」の継続使用。1年の発表大会の継続実施</p> <p>(2) NPO主催の進路説明会の継続実施 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」80%以上を維持する(H29 84.5%)</p> <p>(3) 修学旅行は40期生参加者の満足度85%以上を維持する。(H29年度：94.3%) 海外語学研修は20名以上の参加をめざす。(H29年度：30名)</p> <p>(4) 「共生推進教室7期生の全員進路希望」の実現(H29年度：全員就職)</p> <p>(5) 現浪のべ合格数で、国公立大学および難関私大(関関同立)20人以上、中堅私大(産近甲龍)70人以上、看護専門学校20人以上、公務員等10人以上めざす。(H29年度：難関私立大29名、中堅私立74名、看護専門学校30名、公務員13名)</p>	<p>(1) 「スケジュール手帳」使用 1年生1分間スピーチ(9月実施) プレゼン大会(12月実施) (○)</p> <p>(2) NPO公開講座への参加数 公務員編(6月実施・31名参加) 教員編(10月実施・20名参加) 病院編(12月実施・26名参加) 学校教育自己診断「将来の進路や生き方について情報を得たり考えたりする機会がある」81.9% (○)</p> <p>(3) 語学研修の参加数は19名であったが、修学旅行の満足度が95%と目標を上回った。 (○)</p> <p>(4) 就職希望者全員が内定 (○)</p> <p>(5) 現浪のべ合格数が、国公立大学および難関私大(関関同立)24人、中堅私大(産近甲龍)79人、看護系27人、公務員等29人であった。 (○)</p>
5 広報活動の充実	<p>(1) 地元中学校との連携、および広報紙・学校説明会のより一層の充実</p> <p>(2) インターネットを活用した教育活動の積極的な情報発信</p>	<p>(1) 久米田高校PRカード(名刺大)を地域中学校へ配布する。さらに部活の地域中学校との連携、学校説明会を充実させる。</p> <p>(2) 学校ホームページの更新。校長ブログの創設により、タイムリーかつ分かりやすく本校の教育活動を配信する。</p>	<p>(1) 中学3年生対象第10月進路希望調査において希望倍率2.1以上(H29年度：2.18)</p> <p>(2) 学校教育自己診断：「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」保護者85%以上(H29年度：83.2)</p>	<p>(1) 中学3年生対象10月進路希望調査において希望倍率2.44倍 (◎)</p> <p>(2) 「学校は、ホームページの更新やメーリングリスト等で、学校の情報を伝えている」との保護者回答が84.5%であったが、ホームページのデザイン変更や校長ブログの新設、保護者あてメール登録数の促進(登録76%)などを実施しこれまで以上に情報は新に努めた (○)</p>
6 業務の効率化・整理による職員の時間削減	<p>(1) ノークラブデー、一斉退庁日の確実な実施</p> <p>(2) 安全衛生委員会等による校内業務の効率化・整理の検討</p>	<p>(1) 事前の部活動計画の立案と実施により、ノークラブデーを着実に実施する。校内放送などを活用し一斉退庁日を確実に実施する。</p> <p>(2) 安全衛生委員会を開催し、情報共有の迅速化、紙資料準備の軽減、会議前の情報共有などの施策を進め業務の効率化を図る。</p>	<p>(1) (2) 前年度より職員の月平均時間外勤務時間を削減</p>	<p>(1) (2) 月平均時間外勤務時間28h43m80時間以上のべ10人(昨年度26h42m、のべ20人) 2学期より完全下校時間を徹底。(○)</p>